

令和5年度授業改善推進プランの評価(3学年成果と課題) 文京区立第三中学校

成 果 と 課 題	
国 語	課題となっていた200字の作文を授業および定期考査で取り組む機会をつくった。テーマに沿っているか、体験や見聞は主張したいこととつながっているか、など、同じ基準で添削し、練習を繰り返したことで、何から書き出せばよいのか理解できる生徒が増えた。また、文法、語句、古文、文学史などの知識も反復練習によって定着させることができた。
社 会	教科書を使用して、文章や資料を読み取る力を付けさせる指導をしたので、文章や資料を読み取る力をつけた生徒が多くいた。小テストを実施し、学習したことがらを復習させ、知識の定着を図った。タブレットを使用し、株価の変化を通して、経済についてグループで話し合い、学習した事柄を応用し、さらに踏み込んだ知識を身に付けさせることができた。
数 学	小テストで徹底的に基礎の定着を図った。毎時間ワークを使い本時の復習をして遅れ気味の生徒の対応をした。その結果テストの取り組み方がよく好成績をおさめられた。又、日常的にデジタル教科書を使いICTを活用した授業をすることができた。
理 科	実験・観察に意欲的に取り組み、実験操作などの技能を習得し、実験結果から考察し、レポートにまとめることで思考力・表現力をさらに高めることができた。単元の内容に関わるテーマを自ら設定し調べ発表することで、興味・関心を高め、より発展的な知識を得て理解を深め、表現力を高めることができた。1・2年次の復習とともに、練習プリントや問題集を用いて復習にくり返し取り組むことで知識・理解の定着が多くの子に見られた。学習内容を活用し、日常生活や自然とのかかわりについて考えることができた。今後は、学習したことをもとに自分で考え判断・表現する力をさらに身に付けることが課題である。
音 楽	落ち着いた態度で集中して学習に取り組むことのできる生徒がほとんどであるが、一方で苦手意識から消極的になってしまっている生徒もいる。授業中の声掛けを通して表現しやすい雰囲気づくりや、自己評価シートへのアドバイスの記入を通して、前向きに授業に取り組めるよう促していく。また、鑑賞した曲の紹介文や、歌唱曲の表現の工夫を考える活動では、意見交換やA評価の文章の紹介を通して、自らの考えを深めることができる生徒が増えている。
美 術	授業や課題に対してより前向きに取り組む生徒が増え、ねらいを意識しながら主体的に学習に臨めるようになった。木彫や屏風絵、ポートレートなど始業以前から準備し制作に励む姿が多くみられた。特にポートレートでは、ハッチングの練習を重ね、創意工夫しながら写実的な表現で仕上げることができ、優秀な作品が多かった。また、書画カメラを活用し、木彫やハッチングの詳細な技法などを視覚的に分かりやすく説明し、意欲的に取り組めた。今後は、授業を通して学習した表現方法や知識を様々な生活の場面で活用しながら、作品の良さや作者の心情を理解することでさらに意欲の向上を図る。
保 健 体 育	授業でのねらいを明確にし、授業のはじめと終わりに、ねらいに関連する問いを与えた。球技の学習では、攻防のポイントを学習した上で、さまざまな練習を関連づけて取り組ませた。その結果、学習課題(ゲームでの動き)をより一層、理解することにつながった。さらに、バスケットボールでの学習をサッカーに関連づけながら学習させることで、知識の定着と知識を活用する力の育成を図った。集団種目では、グループで取り組む機会を多く設定し、知識の理解から技能の定着への移行を図った。今後は、多くの単元に発展させていきたい。
技 術	授業での電子黒板の活用により、詳しい作業内容を理解させることを行った。ものづくりに取り組む意欲と技術力を昨年よりも向上させることができた。自分自身で最適解を考えさせ、他人のデータの分析も行うことにより、お互いの長所を取り入れることで、課題解決時の最適解を見付ける力を向上できた。課題としては、最適解を考えずに、基本形だけで作品製作を行う生徒がいたことである。次年度の3年では、今年度の反省を活かし、自分自身で最適解を見付け出させ、実習に取り組ませたい。また、振り返りシートの活用をこれまで以上に行わせ、復習の大切さを学ばせ、授業に参加するように心がけさせたい。高い理解力を身に付けられるように指導していく。
家 庭	家庭科の意義は、日常生活がすべての活動の土台であることを再確認し、授業以外でも、自分の生活を振り返ることのできる課題を設定した。消費生活領域では、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決できるよう毎回の授業で、振り返りシートの充実を図った。ただ次年度の3年生では、知識としては十分に理解できているが、実生活において実践できるようにすることが課題である。今後この反省点を活かし、実践につながる授業案を考える必要がある。
外 国 語	自作のICT教材を活用し、新出文法を聞くことにより推測、理解させ、繰り返し口頭練習をさせて定着させた。友達やALTとの会話、教科書の各パートや各単元末で話したり書いたりする活動、パフォーマンステストを継続して行わせることで、思考力・判断力・表現力を高めさせられた。各自が授業で考えたことを学習発表会(展示の部)で発表した。ESAT-Jは都の平均を上回る結果だった。